

5月の植物

ヒトツバタゴ（モクセイ科ヒトツバタゴ属）

学名：*Chionanthus retusus*

（別名：ナンジャモンジャ）

新緑が眩しい季節です。見慣れた山々や植物にもはっとする美しさを感じます。毎年この時期に楽しみにしている花のひとつがヒトツバタゴです。4～5月、白い花を枝先いっぱい咲かせひととき存在感を放ちます。属名の「キオナンツス（*Chionanthus*）」は「雪の花」の意味で、ヒトツバタゴの真っ白な花がまるで雪が積もったように咲く様子をよく表しています。近づいてひとつひとつの花を見ると、深く4裂した花冠は細く繊細なつくりをしています。

ヒトツバタゴは、日本では長野県、岐阜県、愛知県、長崎県の対馬にのみ自生する珍しい分布の木で、それぞれ天然記念物に指定されています。なかでも対馬北部の鰐浦の群落は最大の自生地として知られます。対馬の自生地を除けば野生のヒトツバタゴは減少傾向にあり、環境省のレッドリストでは絶滅危惧II類（VU）に指定されています。

（文責：松田朋子）



上：祐徳稲荷神社（鹿島市）

（2025.4.29）

右：大圓寺（神崎市）

（2022.4.24）

参考文献：

佐賀の街路樹・庭園木

（佐賀植物友の会,1998）

改訂新版・日本の野生植物⑤

（平凡社,2017）

